大好き！絵本

初瀬　恵美

『かにむかし』
文：木下順二
絵：清水崑
出版社：岩波書店

11月になり、みのりの秋を迎え保育園の柿も、そろそろ食べごろを迎える時期になってきました。

そこで今月は、お話の中に柿が出てくる『かにむかし』を紹介します。別名『さるかにがっせん』とも呼ばれる**昔話**を題材とした絵本の一つで、再話される方や地方により、内容が少し異なったり、語り口調が違ったりしますが、今回は岩波書店から出版されている絵本を紹介したいと思います。

むかし、蟹が柿の種を拾いました。そして、その種を家の庭にまきました。毎日せっせと水をかけたり、こやしをやったりして育てました。やっと柿の実が熟れ、嬉しくて嬉しくて木に登り、実をとろうとしますが蟹はうまく登れません。そこへ、山から猿が降りてきて **「おいらが もいで やろうか」**と親切なふりをしましたが、猿は木に登ったまま一人で柿を食べているだけでした。そして文句をいう蟹に青い柿を投げつけて、殺してしまいまいした。つぶれた蟹の下からは、子蟹が産まれてきました。子蟹たちは、きびを育て、きび団子をつくり、さるのばんばへ仇討ちに出かけます。その途中でくり、はち、はぜぼう、いしうすが仲間になり、力を合わせ、知恵を出し合い、かたきをうつというお話です。

昔話の魅力は**「はよう　芽を　だせ　かきのたね、ださんと、はさみで、ほじりだすぞ」**とか**「かにどん　かにどん　どこへ　ゆく」「さるのばんばへ　あだうちに」**など、リズミカルに繰り返されることばです。昔から語り継がれてきたお話しの持つ魅力ですね。

絵は出版社によりずいぶん異なりますが、華美な原色系、アニメちっくなものでない、素朴で温かみのある絵本が私は好きです。その点からも、今回紹介させていただいた『かにむかし』は絵も優しく、昔懐かしい感じがして、とてもしっくりきます。

昔話離れがある現在。少しでも、季節を感じながら、昔話を楽しむことができたらと思い今月はこの絵本を紹介させていただきました。保育園でも、折に触れ、絵本や紙芝居で昔話を紹介していますが、何度も繰り返し楽しむということには、限界があります。ご家庭で寝る前のひと時などに、お子さんと一緒に絵本を楽しむ時間をぜひ作っていただけたらと思います。その時間は、お子さんだけでなく、お家の方にとっても、きっとかけがえのない、宝物の時間になると思いますよ。